様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２６７１

研究課題名（和文）包括的な主観性理論の構築に向けて

研究課題名（英文）Towards a general theory of subjectivity

研究代表者
阿部　宏（Abe, Hiroshi）

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：１０２１２５４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：
言語における主観性の働きについては、アメリカ，ヨーロッパ，日本の言語研究史の中でそれぞれ独立して発見が行われ、その後の研究も相互交流が薄いまま同時並行的に行われてきた。しかし、操作概念の名称が異なっているとはいえ、これら３つの研究系譜は同一の認識基盤に基づいている。申請者はこれら３種の主観性研究の系譜について、各理論枠と研究対象を詳細に検討し、類似点と相違点を解明した。また、仏英日の主観性にかかわる言語現象のデータを収集・整理し、主観性の働きはある種の機能語などに限られるものではないことを明らかにした。最終的に、理論的考察とデータ分析にもとづいて、包括的な主観性理論の構築を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究実施の過程で、異分野や隣接分野の研究者との情報交換、成果の批判的検討のために、国内外の学会・研究会で積極的に成果発表を行った。また、意味論、語用論、認知科学、文学研究、メディア研究など隣接分野の研究者を複数招いて、大規模なシンポジウムを開催した。特に自由（直接・間接）話法については、言語学者のみならず、英文学、仏文学、英語学、ドイツ語学、哲学などの専門家、および一般読者に配慮した報告を適宜行ってきた。
主観性概念に関する一般理論の仮説については、報告書を準備中である。また、概要をホームページで公開予定である。さらに、専門研究書籍、および日本語での一般向け概説書の刊行に向けて準備を行う。

研究成果の概要（英文）：
The function of subjectivity in language have been independently discovered in the history of language studies in the United States, Europe, and Japan, and subsequent studies have been conducted concurrently and with little interaction. However, even though the names of the operational concepts are different, these three research lineages are based on the same cognitive foundation. For these three lines of subjectivity research, the applicant examined each theoretical frame and object of study in detail to elucidate the similarities and differences. In addition, I collected and organized data on linguistic phenomena related to subjectivity in French, English, and Japanese, and found that the action of subjectivity is not limited to certain functional words. Finally, based on theoretical considerations and data analysis, we attempted to construct a comprehensive theory of subjectivity.

研究分野：フランス語学、一般言語学、対照言語学

キーワード：真実性　望ましさ　実現要請　モダリティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

言語における主観性については、英語学ではフィルモアにはじまるモダリティ概念が認知言語学において、トロゴットらの（間）主観化概念、ラネーカらの主体性概念に発展して、現在盛んに研究が行われている。しかし、上記の仏日の熟語群や同語反復文、矛盾文の考察からもわかるように、主観性の現象はアメリカ系の研究が注目しがちな限定された言語現象に限られるものではなく、目立たない形で言語全体にきわめて広範囲に及んでいることが窺われるのである。

他方、フランス語学においては、19 世紀末のブレアルや 20 世紀初頭のバイイ、国語学においては 18 世紀の本居宣長、鈴木朗などの国学が、すでにこの種の現象を考察しており、その後は時枝誠記の言語過程説に発展された。これらフランス語圏や日本における主観性研究の研究対象は、現代の研究に比べれば荒削りながら、考察対象の射程が広く、発展性のある指摘に満ちている。

２．研究の目的

フランス語、英語、日本語の具体例の考察に基づき、主観性と間主観性との関係、文法化と（間）主観化との関係、語彙的表現と主観性を担う表現との多義性の問題、などについて、これまでの研究史を整理し、これまで研究が集中してきた「真実性」主観性以外の可能性、特にブリュノやバイイが提示していた「望ましさ」主観性、「実現要請」主観性などの成立可能性、およびこれら各主観性間の相互関係を検討し、統一的な主観性理論の構築をめざした。

３．研究の方法

アメリカ系のモダリティ研究、認知言語学における（間）主観化、主体性概念、文法化、プロトタイプ意味論、メタファー化などの理論、フランス語圏を中心とするヨーロッパの研究史、特に「真実性」以外の主観性概念、発話行為論、ナラトロジー理論などを中心に、主観性に関わる研究文献を詳細に検討した。

同時に、意味論、語用論、文法化、認知科学、言語習得関連の現在までの成果について考察する。意味作用一般について、現在までの研究史を概観するとともに、暫定的な主観性仮説の点からの批判的考察を試みた。

仏英日の言語現象について、種々の文学作品、CD や DVD 型のテキスト・データベース、FRANTEXT などのインターネット上のデータベース、インターネットの検索エンジン、各母語話者による会話データなどを利用して広範に収集し、分析用の基礎資料を作成した。以上の考察を通して、主観性概念に関する一般理論の構築を試みた。

４．研究成果

研究成果については、国内外の学会・研究会で積極的に成果発表を行った。また、意味論、語用論、認知科学、文学研究、メディエア研究など隣接分野の研究者を複数招いて、大規模なシンポジウムを開催した。

特に自由（直接・間接）話法については、言語学者のみならず、英文学、仏文学、英語学、ド

イツ語学、哲学などの専門家、および一般読者にも配慮した書籍、論文、概説記事の刊行などを行ってきた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 阿部宏	４．巻 7
２．論文標題 作中世界内的な発話行為について	５．発行年 2018年
３．雑誌名 ナラティヴ・メディア研究	６．最初と最後の頁 99-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 阿部宏	４．巻 11
２．論文標題 シンポジウム報告・作中世界に潜む匿名の主体	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Nord-Est	６．最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://genesis.hss.iwate-u.ac.jp/sjllf-tohoku/bull/Nord-Est_No11.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　1件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 阿部宏
２．発表標題 直示表現と疑似発話行為
３．学会等名 日本フランス語学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 阿部宏
２．発表標題 語りの中の匿名の発話行為
３．学会等名 シンポジウム「語りと主観性　- 自由間接話法とその他 -」
４．発表年 2018年

１．発表者名 Hiroshi ABE
２．発表標題 Les temps (time et tense) chez Benveniste
３．学会等名 日本フランス語フランス文学会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 阿部宏
２．発表標題 名詞句「Ｘの中のＸ」と望ましさ仮説
３．学会等名 15th EAJS International Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 阿部宏
２．発表標題 作中世界に潜む匿名の主体
３．学会等名 日本フランス語フラン文学会東北支部会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Hiroshi ABE
２．発表標題 Du moins et au moins dans le texte narratif
３．学会等名 XXIXe Congres international de linguistique et de philologie romanes（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

１．著者名 阿部宏他	４．発行年 2018年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 340
３．書名 21世紀のソシュール	

１．著者名 阿部宏他	４．発行年 2018年
２．出版社 開拓社	５．総ページ数 552
３．書名 ことばのパースペクティヴ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

シンポジウム・語りと主観性　- 自由間接話法とその他 -・予稿集
http://www2.sal.tohoku.ac.jp/French/koenkaiShuppanbutsu/yokoushuu.pdf

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考